



株式会社 東鋼

代表取締役社長 寺島 誠人

受賞理由

顧客の課題に向き合うことで自社技術を高め、売上の7割を占める自動車分野から脱却すべく、航空機産業や医療産業へと新たな分野への参入を果たし業績を向上させたこと。

7割を占めた自動車分野からの脱却。技術を軸に航空機、医療分野へ挑戦。

創業82年、特殊精密バイトという旋盤で使われる切削工具の販売を行い、売上の7割を自動車関連が占めていたのが弊社です。代表的なものにF1のエンジン製造用の切削工具があり、実用に向けて開発途上のアルミニウム合金など素材データが存在しない中、工具を開発してきました。お客様と共に問題解決を考え、信頼関係を築き、技術で応えることを徹底。「お客様のものづくりを手伝う」という経営理念が培われていきました。

しかし、1997年にハイブリッドカーが発売された時、近い将来電気自動車の時代が来ると予測し、そうならば自動車のエンジン用切削工具事業が打撃を

受けると危惧しました。「何が何でも新しい市場を開拓しなくてはならない」と新分野開拓に全力で取り組むことを決意しました。

2006年、2つの大きなチャンスが到来。1つは、航空機分野。航空機製造を請け負うメーカーからCFRP（炭素繊維強化プラスチック）素材を採用した航空機に用いるドリル製造の依頼が舞い込みました。この機体は1機あたり約20万カ所の穴を開ける必要がありドリル刃の消耗が激しく、頑丈な刃が求められました。開発が決まっても延期などが見込まれる航空機分野への参入には反対の声もありましたが、当社の技術に期待を寄せた取引先に報いたいと大規模な設備投資を断行。受注は3年後となりましたが、現在は売上の3割を占めるまでになりました。

顧客の課題に向き合い技術を向上、
新たな分野に挑戦する「勇気」。



Passion for お客様の喜び

もう1つは、医療分野。「人工関節装着手術の術具としてステンレス製ドリル」製作の依頼です。これについても半年くらいかけて量産体制を整備し、受注を広がっていきました。09年、山口大学から「乳がんにおける乳房温存療法手術補助デバイス」の依頼を受け、5年をかけ開発に成功しました。さらに、整形外科の世界で、表面が滑らかで穴を開けるのが困難な骨の手術用に「オメガドリル」を開発、販売に至りました。

リーマンショックによる売上7割減や、福島に工場があるので東日本大震災による風評被害も被りましたが、ゼロから始めた航空機と医療は売上の5割を占めるまでに成長しました。今後もお客様のものづくりを手伝い、技術を「過去と未来を、弊社とお客様を紡ぐ糸」にするために努力を続けていきます。今期も2億円近い設備投資をしているところですが、挑戦の歩みを止めることはありません。



企業データ

株式会社 東鋼

事業内容 精密切削工具の製造・販売

- 本社所在地：東京都文京区本郷5-27-10
- 業 種：製造業
- 創 業：1937(昭和12)年
- 従業員数：49人
- 資 本 金：6,286万円

- ① 当社の製造するバイト
- ② 骨の手術用「オメガドリル」
- ③ 海外出張時も愛着のある作業着を着用する社員